

イヒナビ

ihinavi

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店



～いつ起こるかわからない、地震の備えを見直す～

阪神・淡路大震災から30年

いま31年目の「備え直し」
「住まいの防災」の原点
“強い家”に加え“すぐ把握できる家”へ

HEBEL HAUS
ALL for LONGLIFE

～いつ起こるかわからない
地震の備えを見直す～



阪神・淡路大震災から30年 いま31年目の「備え直し」

大地震は“次の場所”を選ばない

1995年の阪神・淡路大震災は死者6,434人、住家全壊104,906棟という甚大被害でした。さらに約260万戸の停電、約130万戸の断水、都市ガス約86万戸の供給停止も発生し、暮らしが一気に止まったことが教訓です。その後も各地で大地震が続き、「自分の地域は大丈夫」を前提にしない耐震・制震・家具固定の再点検が必要です。



豪雨・台風：水害が“増えている”のは数字でも明確

気象庁は、アメダス観測で「1時間降水量50mm以上」など短時間強雨の年間発生回数が有意に増加し、強い雨ほど増加率が大きいと整理しています。実際、最近10年（2014～2023年）の50mm以上の平均発生回数は約330回で、統計初期（1976～1985年）の約226回より増えています。立地のハザード確認と止水・排水計画が必須です。

停電・断水の長期化：備えは“在宅避難”基準へ

災害は揺れや浸水だけでなく、ライフライン停止が被害を拡大します。2018年の北海道胆振東部地震では最大約295万戸が停電し、エリア全域の大規模停電（ブラックアウト）に至りました。東日本大震災でも停電466万戸、断水257万戸などが報告されています。調査では非常用食料を用意している世帯は53.8%とのデータもあり、備蓄の“実行”が課題です。

大きな災害があった場合、家族が数日間暮らしていける備えをし、食料や飲料に関しては、ローリングストックをしていきましょう。



～いつ起こるかわからない
地震の備えを見直す～

阪神・淡路大震災から見える 「住まいの防災」の原点

都市直下で起きた“瞬間の甚大被害”をデータで振り返る

1995年1月17日5時46分、淡路島北部を震源（深さ16km）とするM7.3の地震が発生し、最大震度7の激震が観測されました。人的被害は死者6,434人・負傷者43,792人、住家は全壊104,906棟・半壊144,274棟にのぼります。ライフラインも停電約260万戸、断水約130万戸、ガス停止約86万戸、電話不通30万回線超（ピーク時）と、暮らしの基盤が一気に断たれました。

“亡くなる原因の多くが住宅倒壊”という決定的教訓

内閣府（防災担当）は、阪神・淡路大震災の犠牲者（6,400人超）の「約8割が住宅の倒壊等による圧死が原因」と明記し、住宅耐震化の重要性を強く示しています。加えて、被害が老朽木造住宅密集地で大きかったこと、総被害額が約10兆円、避難生活者が約31.7万人に上ったことも、復旧が“建物の安全”と直結する現実を裏付けます。



災害直後、HEBEL HAUSスタッフはすぐに現場へ直行

震災直後は通信が麻痺し、電話不通はピーク時30万回線超とされます。だからこそ、被害状況の把握や応急対応は「現地で見て、声をかける」初動が要になります。HEBEL HAUSも、当時災害が起これ、すぐに現地にスタッフが駆けつけました。そして、一軒一軒のお客様の無事を確認したと報告されています。



～いつ起こるかわからない地震の備えを見直す～



阪神・淡路大震災から四半世紀 “強い家”に加え“すぐ把握できる家”へ

揺れに耐えるだけでなく、被害を「早く小さく」する発想へ

阪神・淡路大震災以降、住まいに求められる価値は「倒壊を防ぐ」だけでなく、被災後の混乱を減らし、早期復旧につなげることに広がりました。HEBEL HAUSは、耐震性を土台にしながら、点検・補修・生活再開までを見据えた“災害に強い住まい”へ進化。万一のときも被害拡大を抑え、暮らしを止めない工夫が重視されています。

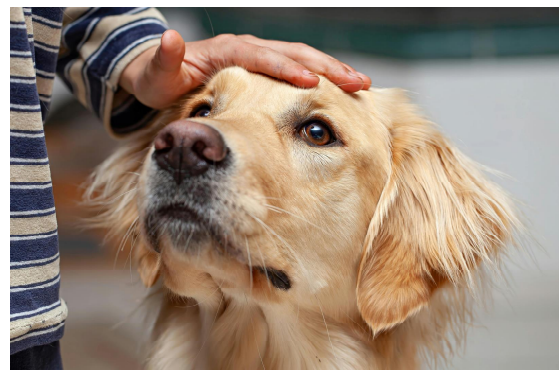
LONGLIFE AEDGiSで「個別建物の被害」を即時推定できる体制

防災情報システムLONGLIFE AEDGiSは、地震計で計測した揺れと地盤データを組み合わせ、地震計がない家も含めて“建物ごとの被害状態”を推定する仕組みです。例えば東京都23区では約2km間隔を想定して基礎に地震計を設置し、推定結果を構造情報と掛け合わせて即時に被害を見える化。災害対応の迅速に進められることができます。



被害ランク化で対応の優先順位が決まり、安心につながる

LONGLIFE AEDGiSの地震被害推定は、外部の地震動情報と建物の構造データを掛け合わせ、地震発生後10分～2時間程度で建物別の被害レベルや液状化状況を把握する運用も進んでいます。独自の「5つの損傷ランク」で優先順位を付け、大きな損傷が想定される建物から迅速に対応することで、復旧の早期化や災害時の問い合わせ対応の負荷軽減など、現場の負荷軽減も狙えます。



HEBEL HAUSの住まいで地震・災害に備える



TOTAL RESILIENCE

災害に遅しく立ち向かう。
ヘーベルハウスは総合防災力を
備えた家。



VS 地震

実績と実証を重ねてきた揺るぎない強さで大地震に対抗。頑強な骨組みと独自の制震技術で繰り返しの地震に耐え、家族の命と暮らしを守ります。

VS 猛暑

高温多湿な夏でも厳しい冬の寒さでも、いかに快適に暮らせるか。外気温からの影響を遮り、冷暖房効率を上げ、住まいの快適性を高めます。

VS 火災

過熱な試験をクリアした耐火構造部材のヘーベル版を壁・床・屋根®に採用。万一の火災にも耐え、類焼、延焼による被害の拡大を食い止めます。※オプションによって異なります。

VS 風水害

ヘーベル版を配した独自構造は、頑強な鉄骨構造で強風に対抗。また浸水による性能劣化や腐食の心配もなく、継続使用が期待できます。

VS 生物[※]

完全無機質で腐朽しないヘーベル版と鉄骨で構成することでシロアリや腐朽菌に対抗。生物の影響による構造体の損傷を抑え、住まいの強さを長く維持します。

TECHNOLOGY



制震フレーム
「ハイパワードクロス」



オイルダンパー
制震装置「サイレス」



ALCコンクリート
「ヘーベル」



高性能断熱材
「ネオマフォーム」



杭工法
「ASWパイル」



TOTAL RESILIENCE

在宅避難や健康維持にもつながる
エネルギーの自給自足



太陽光発電システム

災害時に電力供給がストップしても、太陽光発電システムなら自家発電が可能。照明器具・テレビ・炊飯器やスマホの充電など、生活に最低限必要な家電・機器を使用することができます。



蓄電池

太陽光発電システムと組み合わせたマルチシステムを採用することにより、太陽光で発電した電力をムダなく使用。平常時は電気料金の節約に役立ち、災害時など停電になった時には非常用の電源として活躍します。



COLUMN

蓄電池の設置で、在宅避難時の安心を確保

長期停電が続いた場合でも、電力の備えがあれば、自宅での生活維持が期待できます。慣れ親しんだ家が避難できることは、プライバシーや健康面からも大きな安心となるはずです。

蓄電池設置による在宅避難のメリット

- 電気が使えるので、ミルクをつくることができる。
赤ちゃんの夜泣きなども自宅なら安心。
- 冷暖房によって暑さ・寒さ対策が可能。高齢者の方にも安心。
- ペットと一緒にいてあげられる。
- スマホや携帯の充電が可能。家族との連絡もとりやすい。



JFEグループ社員の皆様

私が
担当
します！



担当者：駒井雄介

今まで手がけた家づくりは150棟以上。
数多くのお客様の想いをカタチにさせていただきました。
家づくりにはコスト・間取り・将来性・税金・補助金・
ローンなど、多岐に渡って注意すべきポイントがあります。
JFEグループ社員の皆様には、特典や割引も
ご用意しております。是非、お気軽にご相談ください。



JFEグループ社員様専用サイト



紹介状発行で
提携割引

家づくりに役立つ
情報発信

来場予約で
追加特典

リモートでの
ご相談もOK

特典をお受けになる場合は専用サイトからの紹介状発行が必要です

<https://www.asahi-kasei.co.jp/ihinavi/jfe-g/>



提携割引制度等の特典利用ご利用される場合は、
窓口である弊支店とのファーストコンタクト・
ご成約ファ上位圏となります。東京法人支店以
外の担当とすでに接触されている場合は対象外
となりますので、ご注意ください。

**こちらの予約なしに直接展示場へ行かれましても
上記特典がお受けになれませんのでご注意ください。**

